

身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接する。

1 この内容項目のページの特徴

低学年の段階においては、特に身近な自然の中で遊んだり、動植物の飼育栽培などを経験し、自然や動植物などに直接触れたりするを通して、それらに対する優しい心を育むことが求められる。一〇二・一〇三ページでは、児童が生き物を育てた経験や、そのときの気持ちについて振り返ることができるようになってきている。また、一〇四・一〇五ページの読み物コラム「シロクマピース」では、動物を飼育する人の思いを捉えることができる。これらのページを読んで、生き物を育てた経験について振り返って考えることで、「優しく生き物に接しよう」「今度はどのような気持ちで生き物と接すればよいか」と動植物に対する愛情を育んだり、主体的に自然と関わろうとする態度を養ったりすることができる。

2 活用のポイント

低学年の段階では、身近な自然に興味をもって接しようとする児童が多い。また、生活科等において、動植物と直接触れ合ったり、育てたりする機会も多い。これらの経験を単なる経験として終わらせないためにも、どのように育てていたか、また、どのような気持ちで育てていたかといった振り返りを行うことが大切である。その

ように自分の経験を振り返ることで、自然に親しみ、優しい心で動植物に接していこうとする態度を育むことができる。

3 活用場面例  
道徳の時間

一〇二・一〇三ページは、動植物を育てた経験について、そのときの出来事や育てているときの気持ちを振り返るときに活用することができる。特に、動植物を大切に思う気持ちをもって育てている児童を称賛したり、学級全体で紹介したりすることで、動植物に対する優しい心を育んでいくようにしたい。

事例

- ① これまでに、どのような生き物を育ててきたか。一〇二・一〇三ページの写真を見て考える。
- ② 読み物資料「虫が大すきーアンリ・ファールブル」を読んで話し合う。
- ③ どのような気持ちで生き物を育てていたのかを振り返り、一〇二または一〇三ページに書く。
- ④ 動植物の飼育栽培に関する教師の体験を聞く。  
(生き物を育てた経験やそのときの気持ちなど。)

国語科

国語科の内容「C 読むこと」の言語活動例「エ 物語や、科学的なことについて書いた本や文章を読んで、感想を書くこと。」の学習で、一〇四・一〇五ページを活用することができる。

事例

- ① シロクマについて、知っていることを発表し合う。
- ② 「シロクマピース」を読む。
- ③ 「シロクマピース」の話について、感想文を書く。
- ④ 書いた感想文について、発表し合う。



P.104~105

生活科

生活科の内容「(7) 動植物の飼育・栽培」に関する指導に当たって、一〇二・一〇三ページを活用することができる。

事例

- ① 一人一鉢で育てているアサガオの水やりや草取りをし、観察記録を書く。
- ② アサガオの様子を紹介し合う。
- ③ 生き物を育てるときには、どのような気持ちで育てた

り、どのようなことに気を付けたりすればよいか話し合う。

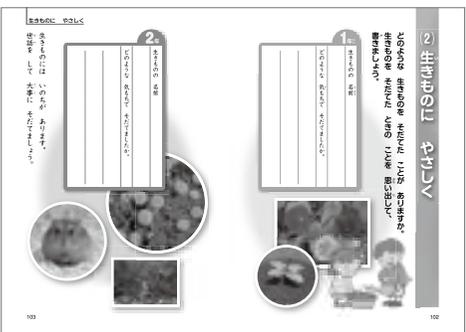
④ これまでにどのような生き物をどのような気持ちで育ててきたか、一〇二または一〇三ページに書き込んで発表する。

家庭との連携

一〇二または一〇三ページの生き物を育てたことについての書き込みを家庭で家の人に紹介する。欄外などに家の人から一言、意見を添えてもらうことで、生き物と進んで関わろうとする意欲を高めることができる。

また、家庭で家の人から生き物を育てた経験を話してもらおうように学級通信や保護者会等を通して依頼する。

生き物の飼育や世話は継続的なものである。折に触れ、家庭で生き物を育てることについて話題にしてもらうようにして、家庭と連携して、生き物に愛着をもって優しい心で接していこうとする意欲を高めていきたい。



P.102~103

1 資料の特性

本資料は、フランスの生物学者、ジャン＝アンリ・ファールの話である。虫が大好きで、いろいろな虫に興味をもって観察したり、虫に関するたくさんの疑問をもつたりするなど、好奇心旺盛だった少年時代。大人になってからも、ファールの虫好きは変わらず、さらにたくさんの虫について調べるようになる。また、観察をした生き物に対しては、感謝の気持ちをもっていたとされるファール。

そのようなファールの姿から、生き物に愛着をもって接し、動植物を大切にすることについて考えを深めることができる資料である。

2 指導上の留意点

人物を題材とした読み物資料であり、本資料を活用するに当たっては、ファールに関する様々な補助資料を用意しておくことが効果的である。

例えば、ファールが書いた「昆虫記」を児童に紹介したり、ファールが調べた昆虫の写真を提示したりすることで、ファールがどのようなことをした人物なのか、具体的に捉えることができる。

また、ファールの見習いたい所やファールのすごいと思った所などについて話し合うことで、ファールの

- ・アサガオを「早く大きく育ててね」という気持ちで育てていた。
- ・ザリガニを育てていたときに、「元気に育ててほしい」という気持ちで世話をしていた。

◎国語科の学習と関連させた活用

本資料を使って道徳の学習を行う前に、国語科の内容「読むこと」の学習と関連させて「昆虫記」の読み聞かせをしたり、「昆虫記」に出てくる昆虫について書かれた本を読んだりすることで、生き物に愛着や関心をもつファールの気持ち、より捉えやすくなること、また、授業後にも、生き物について書かれた本を紹介することで、動植物に愛着をもって接しようとする態度を育むことができる。

事例②

読み物資料とコラムを活用して、動植物との関わりについて考える展開

【主な学習】

- ①ファールは、虫のことをどのように思い、どのような気持ちで接していたのか。
  - ・ファールは、虫のことが大好きなんだと思う。
  - ・逃がしてあげるとき、「ありがとう」と言う所から、虫に感謝の気持ちをもっていたと思う。
  - ・虫の命を大切にしていたんだと思う。

姿から、生き物との関わりについて学ぶことができる。

3 展開例

【ねらい】

身近な自然に親しみ、動植物に優しく接しようとする態度を育む。

事例①

ファールの思いを通して、動植物との関わりについて考える展開

【主な学習】

- ①子供の頃のファールは、虫を見つけたとき、どのようなことを思っていたのか。
  - ・どうやって鳴いているのかな。
  - ・調べてみたいな。
- ②虫について不思議に思ったことを調べているファールは、どのような思いでいるのか。
  - ・虫のことが好きだから、もっと知りたい。
  - ・虫のことについて詳しく知ることができたので、調べてよかったな。
- ③観察を終えて、ファールは、どのような思いで虫を逃がしていたのだろうか。
  - ・元気でいてね。また、いろいろなことを教えてね。
  - ・いろいろ教えてくれてありがとう。
- ④これまでに、どのような気持ちで生き物を育ててきたのかを振り返り、一〇二または一〇三ページに記入する。

- ②読み物コラム「シロクマピース」を読んで、生き物を世話するとき大切なことを話し合う。
- ・生き物には全て命があることを忘れてはいけない。
- ・人間の勝手に世話をやめてはいけない。

- ③二つの読み物を読んで、生き物との関わりで大切なことについて、自分自身の経験を振り返りながら話し合う。
  - ・生き物のことを考えて世話をする。
  - ・生き物には命があるから、最後まで大切に世話をする。

◎自分の経験を振り返る工夫

身近な動植物に愛着をもって接する態度を育むためには、児童が生き物と関わったときのことを、より具体的に振り返って考えられるようにすることが大切である。

例えば、道徳の授業の導入などで、これまでに児童が育ててきた生き物について、写真などの資料を掲示して思い出させたり、生き物を育てているときの児童の様子について話したりして、生き物を育てていたときのことを具体的に振り返りながら考えさせるようにしたい。



美しいものに触れ、すがすがしい心をも。

1-1の内容項目のページの特徴

低学年においては、生活の中に存在している身近な自然の美しさや、心地よい音や音楽、物語で語られている美しいものや清らかなものに素直に感動する体験を通して、すがすがしい心をもつように指導することが大切である。

そのため、本内容項目のページでは、虹や雄大な海、四季折々の美しい景色の写真などを盛り込み、ページを見て、まず美しさを感じ、そして、感動体験を想起できるように構成されている。

書き込み欄については、体験での感動や素敵なものに出会ったときの思いなどについて、各教科等と関連させて書き込めるように工夫をしている。

2 活用のポイント

どのページにもイラストや写真が掲載されているので、それらを見ながら、自身の感動体験や美しいものとの出会いについて想起させるようにしていきたい。

また、同じ体験でも、児童それぞれの受け取り方は異なるため、「美しい景色を見た」「素敵なたんぽぽを見た」など、ねらいに関わる機会を捉えて、記録に残したり感想を交流し合ったりするようにしたい。

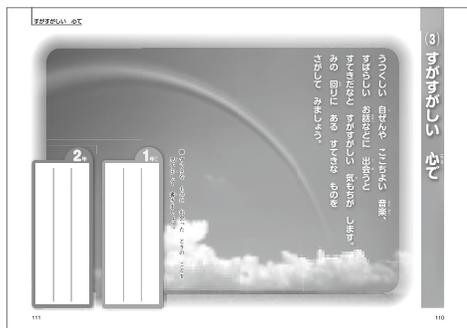
3 活用場面例

道徳の時間

道徳の時間では、一一〇から一一五ページの虹のイラストや美しい海、日本の四季の美しさを表した写真などを提示したり、感動の思いを文章や絵で表現したりすることで、すがすがしさを感じることができるようになる。

事例

- ① 一一二ページの夕日の沈む美しい海の写真を見て、心に残っている美しい景色や自然、美しい曲などについて話し合う。
- ② 読み物資料を読んで話し合う。
- ③ 美しい自然やすばらしい景色など、素敵なものに出会ったときの思い出を出して、一一一ページに記入し、感動の思いを交流する。



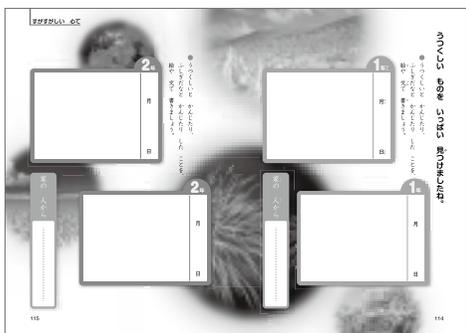
P.110~111

生活科

生活科の内容「(5) 季節の変化と生活」に関する指導に当たって、地域の秋探しに出掛けた際、紅葉した木々の美しさや自然の不思議さ、面白さに気付くようにするために、一一四・一一五ページを活用することができ。

事例

- ① 自分が見付けた景色や紅葉、落ち葉など美しいと感じたり、不思議だと感じたりしたことを一一四または一一五ページに絵で描いたり、文章で書いたりする。
- ② 季節の変化について気付いたことや感動したことを発表し合う。



P.114~115

家庭との連携

美しいものを見付けたときの感想を家庭で交流したり、意見を書いてもらったりするように、学級通信等で協力を依頼する。

事例

- ① 一一四または一一五ページに描いた絵や書いた文章などを家の人に見せながら、見付けた景色の美しさや感動を伝え、家の人に意見を書いてもらう。
- ② 家族で出掛けた際に出会った美しい景色や自然などについて、家の人と一緒に感動を交流しながら絵や文章で表す。



P.112~113

音楽科

音楽科の内容「A 表現」の「(1) イ 歌詞の表す情景や気持ちを想像したり、楽曲の気分を感じ取ったりし、思いをもって歌うこと。」の指導において、壮大な海の写真や「うみ」の歌詞を見ることで、歌詞の表す情景を想像したり、三拍子のリズムなどから生み出される楽曲の気分を感じ取ったりして、このように歌いたいという思いをもって、歌うようにする。

4 みんなとまじり

(1) やくそくやきまりをまもって

P.118~127

4-(1)

約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にします。

1-1の内容項目のページの特徴

本内容項目は、学習指導要領で示されている道徳の指導内容の重点の一つである社会生活上のきまりを身に付けることと関連の深い項目である。

低学年の段階は、小学校の入門期として、約束やきまりについて指導することが多い。一一八・一一九ページでは、みんなで使う場所、みんなで使う物についてどのようなものがあるか、きまりがなかったらどうなるかについてイラストを見ながら考えることができる。一二〇・一二一ページでは、なぜそのようなきまりや約束があるのか、集団生活を送る上での約束やきまりの意味について考えられるようになっていく。また、このページには、家の人からの書き込み欄があり、約束やきまりの意味について児童が考えたことに対しての意見をもらうことができる。約束やきまりがなぜ必要なのかを、家族と一緒に考える機会にもなり、家庭と連携して指導することもできる。

2 活用のポイント

本内容項目では、生活をする上で必要とされる約束やきまりを守ろうとする態度を育てるようになる。そのためには、「きまりがあるから守る」という考え方から「約束やきまりは、互いが気持ちよく過ごすためのもの

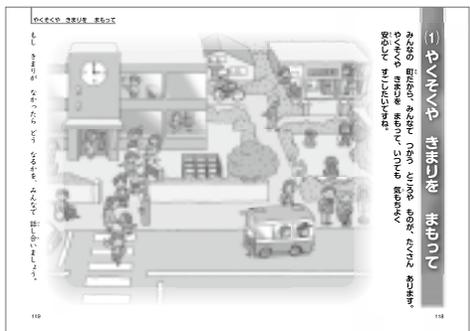
返って、みんなが使う物の使い方について話し合う。

生活科

生活科の内容「(1) 学校と生活」や「(4) 公共物や公共施設の利用」に関する指導に当たって、一一八・一一九ページを活用することができる。

事例

- ① 一一八・一一九ページを見ながら、自分たちの町にはどのような公共物や公共施設があるのか話し合う。
- ② どのような人が、どのようにそれらを使っているのか、これまでの体験を基に話し合う。
- ③ 実際に、公共物や公共施設を利用して気付いた公共施設や公共物の使い方について話し合う。



P.118~119

特別活動(学級活動)

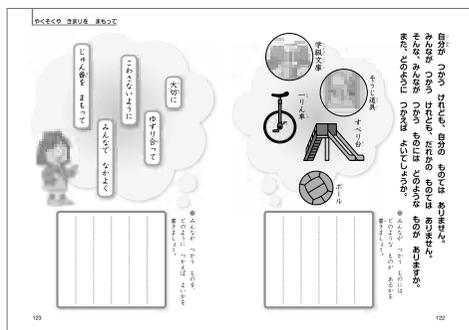
学級活動の内容「(1) 学級や学校の生活づくり」については、自分たちでルールをつくって守る活動などが一層重視されている。内容(1)の指導に当たって、本内容項目のページを活用することもできる。

3 活用場面例  
道徳の時間

自分自身を振り返る場面で一二二ページのイラストを活用して、みんなで使う物にはどのようなものがあるか、それらをどのように使えばよいかを考えることができる。

事例

- ① 学校や町にある「約束やきまり」「きまりではなけれど、みんなが守っていること」を思い出して発表する。
- ② 読み物資料「黄色いベンチ」を読んで話し合う。
- ③ 一二二ページのイラストを活用し、自分の生活を振り返る。



P.122~123

家庭との連携

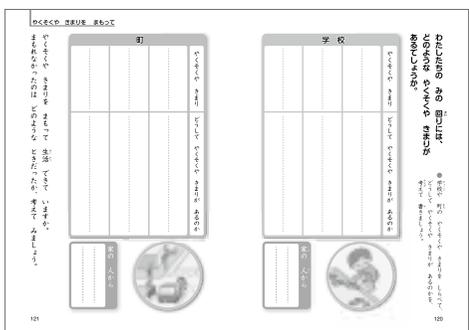
一二〇・一二一ページの内容について学習したことを学級通信等で家庭に伝え、「家の人から」の欄に「家の人が見付けたあなたがきまりを守っていた立派な姿」などを書き込んでもらう。認めてもらうことによって、さらに児童の実践意欲を高めるようにする。

また、「家の人から」の欄に、家の人や社会生活上、大切にしている約束やきまりを書いてももらったり、児童の書き込みに対して意見をもらったりしてもよい。

こうした書き込みを通して、学校や家庭、地域にある様々な約束やきまりについて家の人と一緒に考え、話し合うきっかけにしたい。

日常生活

生活上の月目標や週目標などに、本内容項目と関係の深い目標がある学校も多いと考えられる。朝の会や帰りの会などでの生活指導に当たっては、本内容項目のページを活用して指導することもできる。



P.120~121

1 資料の特性

雨が降り続き、やっと晴れた日曜日。たかしとてつおは、ベンチを泥だらけにしていることにも気付かず、公園のベンチに上がって夢中になって紙飛行機を飛ばしていた。そこへ、女の子とおばあさんがやってくる。後から来てベンチに座った女の子のスカートが汚れてしまったのを見て、二人は、はっとするという内容である。公徳心の基盤にあるのは、不特定多数の他者への思いやりである。遊びに夢中になるあまり、そこに思いの至らなかった二人が何に気付いてはっとしたのか、二人の思いについて考えることができる資料である。

2 指導上の留意点

低学年の児童は、約束やきまりについて、「大人から教えられたから」「守らないと叱られるから」と、他律的に守っていることが多い。しかし、本内容項目は、自律的に、約束やきまり、公徳を大切にすることができ児童を育てていくことをねらいとしている。「きまりだから守る」ではなく、社会の法やきまりのもつ意義について考えさせた上で、それらを守ろうとする態度を養うことが大切である。

事例②

役割演技を生かして、みんなが使う物の使い方について考える展開

【主な学習】

- ① ベンチの上から紙飛行機を飛ばす二人は、どのような気持ちだったか。
  - ・ よく飛んで気持ちがいい。
  - ・ いいことを考えてよかった。
- ② 女の子とおばあさんの様子を見た二人は、どのようなことを思ったか。(役割演技を通して考える。)

たかし…悪いことをしちゃったね。  
 てつお…靴で上がらなければよかった。  
 たかし…女の子がかわいそうだね。  
 てつお…おばあちゃんにも悪かったね。  
 たかし…夢中で遊んで、人のことを考えなかった。  
 てつお…ベンチは座るところだもんね。  
 たかし…ベンチやぶらんこはみんなが使う物だって考えなければならなかった。  
 てつお…謝ろう。次は気を付けようね。

- ③ みんなが使う物をどのように使えばよいか。自分の経験を基に一二三ページに書いて話し合う。

3 展開例

【ねらい】

約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にしようとする態度を育てる。

事例①

たかしとてつおの思いを通して、公徳について考える展開

【主な学習】

- ① 降り続いた雨が上がって、二人はどのような気持ちだったか。
  - ・ 早く遊びたい。思い切り遊びたい。
  - ・ 何か面白いことをしたい。
- ② ベンチの上から紙飛行機を飛ばす二人は、どのような気持ちだったか。
  - ・ よく飛んで気持ちがいい。
  - ・ いいことを考えてよかった。
- ③ はっとして顔を見合わせた二人は、自分たちがしたことについてどのようなことを考えたか。
  - ・ 自分たちのせいで女の子のスカートが汚れてしまったんだ。
  - ・ 公園のベンチは自分たちだけが使う物ではなかったんだ。
  - ・ 女の子もおばあさんも嫌な気持ちだろうな。
  - ・ 悪いことをしてしまった。謝った方がいいな。
- ④ みんなが使う物を大切に使うことはあるか。一二三ページを参考にして、みんなが使う物について考えるから、自分の生活を振り返る。

四の視点 重点ページ

きまりカルタ

1 このページの特徴

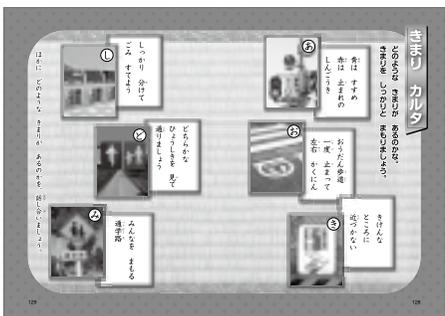
一二八・一二九ページは、道徳の指導内容の重点の一つである社会生活上のきまりを身に付けることに関連する内容である。

きまりやルールについては、その意義を考えさせ、高学年の内容である自他の権利を尊重するとともに義務を大切にす精神を身に付けることにつながるように、繰り返して指導することが大切である。

2 活用事例

■ 家庭との連携

学級通信や保護者会等で、この内容についての学習の様子を家庭に伝え、学校外での活動や長期休業中等における家庭での指導においても、このページを積極的に活用してもらうよう依頼する。



P.128~129

P.128~129